



子ども大学学生新聞

第26号
子ども大学
かわごえ新聞部

森が人間にとって必要なわけ 小瀬先生 「自然を大切に作る社会に」

十月二十四日、東洋大学川越キャンパス5号館512教室で、東洋大学総合情報学部の小瀬博之先生による「森はなぜ人間にとって必要なのか」という授業がありました。出席者は学生九七人(四年生三八人、五年生四〇人、六年生一九人)、保護者四八人、きょうだい九人でした。今回はハヤシ海運株式会社の冠(寄付)講座です。授業が始まる前に林典夫会長のあいさつがあり、学生全員にスポンジたわしをプレゼントしてくださいました。



一時間目。最初に先生が話してくださいました。「東洋大学のこもれびの森をどう感じたか?」ということでした。学生から出た答えは「きれい」「涼しい」「木がたくさんある」などでした。次に、現在と昔の生活のちがいにいって教えてくださいました。昔は自給自足をしていたのが、今では食べ物や服などを自分で作らず、買って生活しています。昔の職業は農林業が六〇%だったのに、今ではサービス業の人が多くなっています。人間は森をあまり必要としなくなると、先生は話されました。川越も森がだんだん減っています。くぬぎ山は一八八一年には林が広がっていたけれど、一九四八年には萌芽更新(ほうがこうしん)で、木が所々でなくなっています。萌芽更新とは、木を伐採し、出てきた芽を選び、育て、新しい木にすることです。二〇〇七年には森が使われなくなってきました。そのあと、少し東日本大震災の話をして、エネルギーの話になりました。エネルギーの多くは太陽の光からもらっています。

ます。太陽がないと動物も植物も生きていけないのです。産業が活発になって石炭や石油を燃やして電気エネルギーを大量に使うようになって二酸化炭素ガスをだし、それが地球温暖化の原因になっています。二酸化炭素ガスを減らすには、それを吸収する森が必要と、先生は話されました。

一時間目の最後に、「生態系」のことを教えてくださいました。人間を支えるのは生態系で、植物は生産者、動物が消費者。その食物連鎖の中で人間は生きていくというお話でした。

私は授業を聞いて、森が年々減っているのに驚きました。地球温暖化は二酸化炭素のせいなのだ改めて実感しました。(増田夢実記者 〇名細小6年)

いろいろな種類の植物や虫がいます。なかには、ぜつめつきぐしゅなど、めずらしい動物もいるそうです。先生は「町の中に緑をふやしましょう。そうすれば生きものはもどってきます」と、おっしゃいました。(奈村晴冬記者 〇高階小4年)

☆先生インタビュー
A 子どもの時、将来どんな仕事につきたいと思っていましたか。
Q 天気予報士です。
A 昔はどんな遊びをしていましたか。
Q 木登りや田んぼにはいること。
A 小学校で得意な学科は何でしたか。
Q 理科です。(篠崎仙太郎記者 〇中央小5年)

先生が二時間目の最初に見せてくださったのは、古い絵地図と現代の地図です。昔に行けば行くほど、森林が多く、現代に近づけば森林は少なくなっています。つまりコンクリートで道をかためている所が多くなって、動物や植物の居場所を取ってしまうということをお話してくださいました。

先生は「人間は自然から衣食住やエネルギーの恵みを受けているので、生物を大切に作る社会にしよう」と話されました。

最後に、こもれびの森にはえている植物や、住んでいる動物を紹介してくださいました。この日、先生は七年ぶりにタヌキを見たそうです。植物では、キンラン、ギンラン、センニチソウなど。昆虫では、カブト虫、ミンミンゼミ、ニホンミツバチ、白テンハナモグリなど、い

☆学生の授業感想

◇仙波小4年・原岡菜里さん「昔は多かった森林も、今はおはかや建物、駐車場になってしまつて、けっこう少なくなつたことに、とてもおどろきました」

◇南小6年・三沢成美さん「授業を聞いて初めて知ったことは、森が年々減つて行くことです。とても驚きました」(〇牧優那記者 〇西武文理小5年)

◇片桐光一郎君「今日の授業は質問式で分かりやすかつた」(〇品川遙紀記者 〇高階西小6年)

☆記者の授業感想

◇吉岡終大記者 〇上尾東小4年「動物の話聞いて気づきました。『土じょうび生物以外にも、いなくなると連繋が亡くなるのか』。ぼくは、自然はかいをしたくありません」

古今亭しん八さんの落語学習

学生7人が「お笑いを一席」

十月十日、蓮馨寺講堂で古今亭しん八さんの落語体験学習がありました。出席者は学生四二人、大人四〇人でした。

一時間目は落語に関する話と実演がありました。しん八さんは「言葉をしやべらずに芸を見せると、一人一人受け取り方がちがうのがおもしろい」とおっしゃいました。

次に言葉遊びをしました。「横」を「黄色い実がなる木」と読んで、バナナやレモンにしたり、「と」の中に「い」を書いて、トナカイにしたりして、字を楽しむ遊びをしました。

落語の実演は「てんしき」という題でした。お寺のごぞうは「てんしき」は「おなら」ということを知っていたので、それを知らない大人に、わざと「てんしき」とは、お酒好きという意味だよ」と教えるという話をしました。みんな、笑ったりして、おもしろそうに聞いていました。二時間目は、学生七人が、はおりを着せてもらって落語を体験しました。ねずみをつかまえて「大きい」「小さい」と言い合っていると、ねずみが「チュウ」と言ったという小話や、おけしようにしているお母さんに「なんできれいならないの」と言ったり、めんを食べる芸を

していました。

最後に落語家について話がありました。落語家は、はじめは見習いとして芸をぬすみ、次に前座を五年、その次に二つ目を十年、そして真打になるそうです。しん八さんは二つ目ですが、もうすぐ真打になるとおっしゃっていました。

（堀越萌加記者 上戸小4年）

☆落語を演じてみました

私は自分で考えた落語をやりました。内容は、うどん屋に行った男の人が、うどんをたのんだところへネズミがきて、少女がネズミを捕まえたと言う話です。工夫をした所は、手ぬぐいを使って、本やお財布に見立てたことです。失敗なくして良かったと思います。見ている人を見るタイミングが難しかったです。

（堀友花記者 大塚小6年）

手ぬぐいを使って

ぼくは高座に上がった時、きん張して声が出なくなりそうだったけど、話をう



まく言えてよかったです。最後に皆を笑

わせられたので、ほっとしました。一生に一度しか出来ないような体験をするこ

☆落語を聞いて

私は落語を生で聞くのは初めてで、「てんしき」というのを聞きました。一人でも役もやって、すごくおもしろい話でした。また古今亭しん八さんの落語を聞きたいです。（土田莉子記者 山田小6年）

（吉岡柊大記者 上尾東小4年）

☆しん八さんにインタビュー

Q どうして落語家になろうと思ったのですか。

A フリーの仕事をしていましたが、落語に出会って、おもしろそうだなと思ったからです。

Q 落語を何時間ぐらい練習しますか。

A あまりやりません。ですがネタづくりをいっぱいします。一日作っていてもあきない。

Q 落語をやっていると、苦しい時は？

A 笑ってもらえない時です。そんな時は同じ失敗はしないようにしようと思に誓います。

Q 落語家になっていなければ、何をやりたかったですか。

A 絵を描くのが好きなので、まんが家になりました。

（大塚小5年）

姉妹都市・棚倉で音楽交流 合唱団ジュニアコーラス

一〇月三日、川越市の姉妹都市・福島県棚倉市のミュージックフェスティバルに、子ども大学かわごえ合唱団と新聞部おとなの計三一人が初めて参加しました。朝早くウエスト川越を貸切バスで出発途中、歌を繰り返し練習しました。

棚倉市文化ホールにつくと、控室で隣になった修名高等学校の生徒のみなさんが歓迎して下さいました。私たちはお互いにお菓子の交換をして仲を深めました。本番前のリハーサルでは、一人ひとりがとても真剣な表情をしていました。本番、私たちに順番が回ってきました。とても大きなホールで、何より県を超えての発表だったので、とても緊張しました。歌った曲目は「ふるさと」「とおりやんせく螢の光」「万葉集から 秋の野に」「虹の玻璃」です。歌はとても上手くなりました。

棚倉の小学校、中学校、高校の歌を聞かせていただき、とても感動しました。特に高校生の歌声は素晴らしく、涙が出るほど感動しました。

今回参加したミュージックフェスティバルは、私にとっても、また、参加した全員にとっても、とても新鮮で有意義なものになりました。

本鼓の演奏に感動

（堀彩夏、シニア記者 城南中2年）
私がいちばん印象に残ったのは、はなわ工業高等学校の和太鼓です。すごい力はあって、ぜん身にひびいていました。（秋山花那記者 鶴ヶ島二小4年）